

アジアモンスーン観測年 (AMY)

AMY (Asian Monsoon Years) Coordinated Observations

松本 淳 [1]; 樋口 篤志 [2]; 山中 大学 [3]; 森 修一 [4]; 伍 培明 [5]; 荻野 慎也 [6]; 小池 俊雄 [7]; 横井 覚 [8]

Jun Matsumoto[1]; Atsushi Higuchi[2]; Manabu D. Yamanaka[3]; Shuichi Mori[4]; Peiming Wu[5]; Shin-Ya Ogino[6]; Toshio Koike[7]; Satoru Yokoi[8]

[1] 首都大・都市環境・地理; [2] 千葉大・CEReS; [3] JAMSTEC-IORGC / 神大・理; [4] 海洋研究開発機構; [5] IORGC, JAMSTEC; [6] なし; [7] 東大・工; [8] 東大気候システム

[1] Dept. Geogr., Tokyo Metrop. Univ.; [2] CEReS, Chiba University, Japan; [3] IORGC, JAMSTEC;

DEPS/GSS, Kobe Univ; [4] JAMSTEC; [5] IORGC, JAMSTEC; [6] IORGC/JAMSTEC; [7] Department of Civil Engineering, The University of Tokyo; [8] CCSR, Univ. of Tokyo

アジアモンスーン年 (AMY 2007-2012) は、世界気候研究計画 (WCRP) 中の国際モンスーン研究計画 (IMS) の一環として、統合的な観測とモデリングにより、地球の陸地・海洋・大気・水圏・雪氷圏・人間活動を含む生物圏の複雑な相互作用により成立しているアジアモンスーンの理解を深め、その予測精度の向上をめざす総合的な研究プロジェクトである。2008-2009 年には、最初の集中観測 (IOP) を実行する予定である。

本発表では、AMY における統合的集中観測の概要を紹介するとともに、冬の東南アジアにおいて、北東モンスーンの下で発生した豪雨に関して、その多重スケール連関による発生機構についての予察的成果について報告する。